

## 2 人口の基本的及び社会的属性

### (1) 男女別人口

総人口を男女別にみると、今回は前回に比べて男子が11,903人（増加率0.8%）、女子が18,243人（同1.2%）それぞれ増加して、男子1,488,340人、女子1,497,336人となった。この結果、性比（女子100人に対する男子の割合）は99.4となり、前回より0.4ポイント下降している（第1表）。

性比を県内5地域別にみると、鹿行地域が101.7と最も高く、以下、県南地域（100.6）、県西地域（99.5）、県北地域（99.0）、県央地域（96.4）の順になっている（第2表）。

鹿行地域では、県内で最も高い神栖町（109.0）を筆頭に鹿嶋市（105.7）、波崎町（100.6）及び大洋村（100.1）の1市2町1村が100.0を超えている。県南地域では、つくば市（108.0）以下6町村が100.0を超えている。

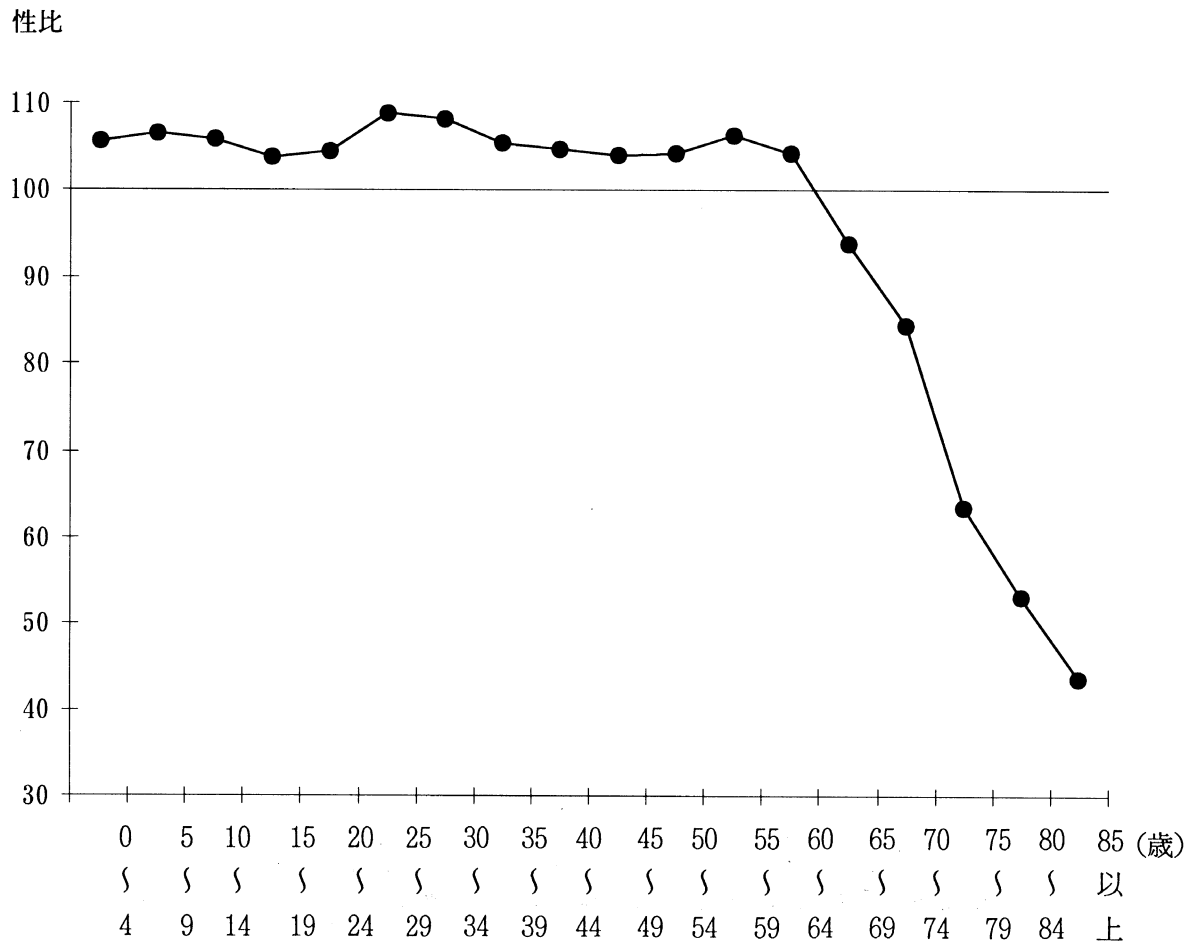
県西地域でも、8市町村が100.0を超えているが、他の4地域に比べて、最も高い総和町（104.2）と最も低い関城町（95.9）との差が一番少ない。県北地域では、3市村が100.0を超えているが、97.0未満では5地域中最も多い11市町村を数えている。県央地域は、性比が5地域中最も低く、100.0を超えるのは小川町のみとなっている（表-11）。

表 - 11 市町村別性比状況

性 比	県北地域 (99.0)	県央地域 (96.4)	鹿行地域 (101.7)	県南地域 (100.6)	県西地域 (99.5)
110.0未満	小 川 町 (106.0)		神 栖 町 (109.0) 鹿 嶋 市 (105.7)	つ く ば 市 (108.0)	
105.0未満				千 代 田 町 (104.8) 美 浦 村 (102.7)	総 和 町 (104.2) 五 霞 町 (102.6)
102.5未満	ひたちなか市 (101.9) 東 海 村 (101.4) 日 立 市 (100.8)		波 崎 町 (100.6) 大 洋 村 (100.1)	龍ヶ崎市 (102.3) 守 谷 町 (102.1) 玉 里 村 (101.8) 谷 和 原 村 (100.0)	岩 井 市 (101.9) 猿 島 町 (101.5) 千 代 川 村 (101.4) 石 下 町 (101.4) 明 野 町 (100.0) 下 妻 市 (100.0)
100.0未満					八 千 代 町 (99.7)
99.4				土 浦 市 (99.4) 江 戸 崎 町 (99.4)	結 城 市 (99.4)
99.4未満	北 茨 城 市 (98.0) 里 美 村 (97.5) 高 萩 市 (97.1)	美 野 里 町 (99.3) 内 原 町 (99.0) 岩 間 町 (98.3) 七 会 村 (98.3) 茨 城 町 (97.4) 友 部 町 (97.1)	旭 村 (98.7) 麻 生 町 (97.4) 玉 造 町 (97.2) 銚 田 町 (97.0)	霞ヶ浦町 (99.1) 桜 川 村 (99.1) 新 利 根 町 (99.0) 取 手 市 (98.9) 牛 久 市 (98.7) 伊 奈 町 (98.3) 新 治 村 (98.1) 阿 見 町 (97.8) 阿 茎 崎 町 (97.5) 八 郷 町 (97.2)	三 和 町 (99.3) 境 町 (99.1) 下 館 市 (98.8) 大 和 村 (98.3) 水 海 道 市 (97.7) 協 和 町 (97.0)
97.0未満	美 和 村 (96.0) 那 珂 町 (95.9) 大 宮 町 (95.8) 大 子 町 (95.5) 十 王 町 (95.4) 水 府 村 (95.4) 金 砂 郷 町 (95.3) 山 方 町 (94.9)	大 洗 町 (96.4) 水 戸 市 (95.4) 笠 間 市 (95.1) 常 北 町 (95.1)	潮 来 町 (96.8) 北 浦 町 (96.7) 牛 堀 町 (96.6)	河 内 町 (96.2) 東 町 (96.0) 石 岡 市 (95.9) 利 根 町 (95.4) 藤 代 町 (95.3)	古 河 市 (96.7) 真 壁 町 (96.3) 関 城 町 (95.9)
94.5未満	常 陸 太 田 市 (94.2) 緒 川 村 (93.7) 瓜 連 町 (92.9)	岩 瀬 町 (94.2) 桂 村 (94.1) 御 前 山 村 (93.0)			

また、これを年齢5歳階級別にみると、0～4歳から60～64歳までは105.0前後で推移しているが、65～69歳（93.9）以降は、年齢階級が上がることに低下し、85歳以上では最も低い43.5となっている。

図 - 5 年齢（5歳階級）別性比 - 茨城県 -



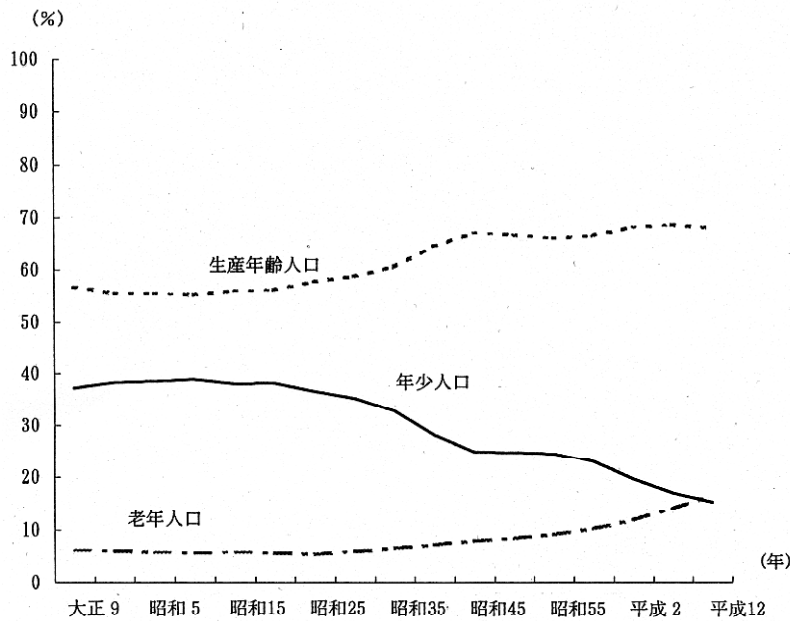
## (2) 年齢別人口

総人口を年齢3区分別にみると、年少（0～14歳）人口が458,501人、生産年齢（15～64歳）人口が、2,030,360人、老年（65歳以上）人口が495,693人となり、総人口に占める割合は年少人口15.4%、生産年齢人口68.0%、老年人口16.6%と、前回より年少人口が1.7ポイント低下した一方で、老年人口が2.4ポイント上昇した（第3表）。

この割合の推移を昭和25年からみると、年少人口は一貫して低下し続け、昭和40年に4.6ポイント、また平成2年には3.4ポイントそれぞれ前回より低下しているのが目立つが、今回も1.7ポイント低下した。生産年齢人口は、昭和40年に4.0ポイント、また昭和45年には2.6ポイントそれぞれ前回より上昇したものの、その後昭和50年及び55年にはいずれも前を下回り、昭和60年から再び上昇に転じていたが、今回は前回より0.7ポイント低下した。

老年人口は年少人口とは反対に、昭和30年以降一貫して上昇しており、昭和55年までは各回とも微増（0.5～0.8ポイント）を続けていたが、今回は2.3ポイント上昇し、今回も2.4ポイント上昇しており、今回初めて老年人口が年少人口を上回った。

図 - 6 年齢（3区分）別人口割合の推移（大正9年～平成12年） - 茨城県 -

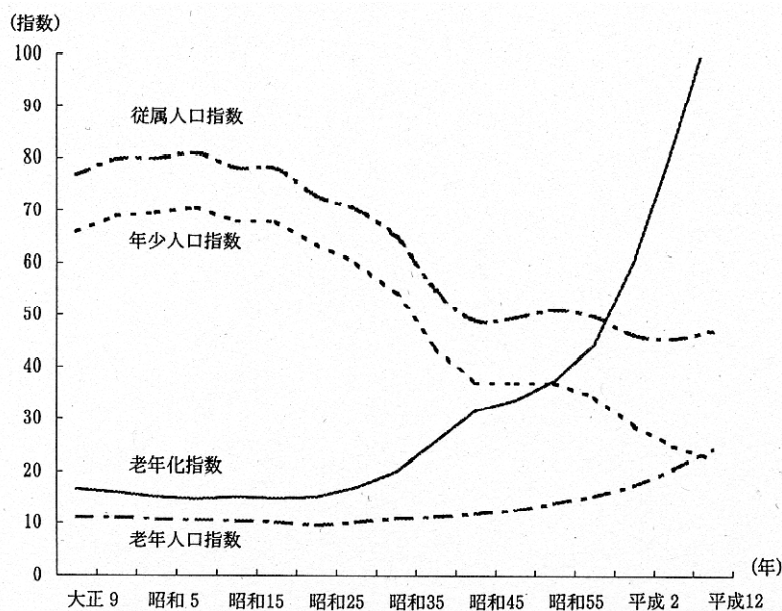


注) 昭和20年は11月1日現在の数え年による人口調査であり、年齢3区分は1～15歳、16歳～65歳、66歳以上。

総人口の年齢構成の変化について、昭和25年以降の各指数の推移から考えると、従属人口指数（生産年齢人口に対する年少及び老年人口の割合）は、毎回急激な低下を示し、昭和45年には50.0を下回るまでになったが、昭和50年及び55年に上昇して再び50.0を超えたものの、昭和60年からは再度低下に転じた。今回は前回比1.5ポイント上昇の47.0と前回を上回ったものの、低い数値となっている。また、老年化指数（年少人口に対する老年人口の割合）は、一貫して上昇しており、昭和35年からそのペースが加速し、前回（平成2年～平成7年）は上昇幅（22.2ポイント）で82.2となり、今回（平成7年～平成12年）は上昇幅（25.3ポイント）で108.1となり、初めて100.0を上回った。

また老年人口指数は、前回よりも3.8ポイント上昇し、今回初めて老年人口指数が年少人口指数を上回った（第3表、図 - 7）。

図 - 7 年齢構成指数の推移（大正9年～平成12年） - 茨城県 -

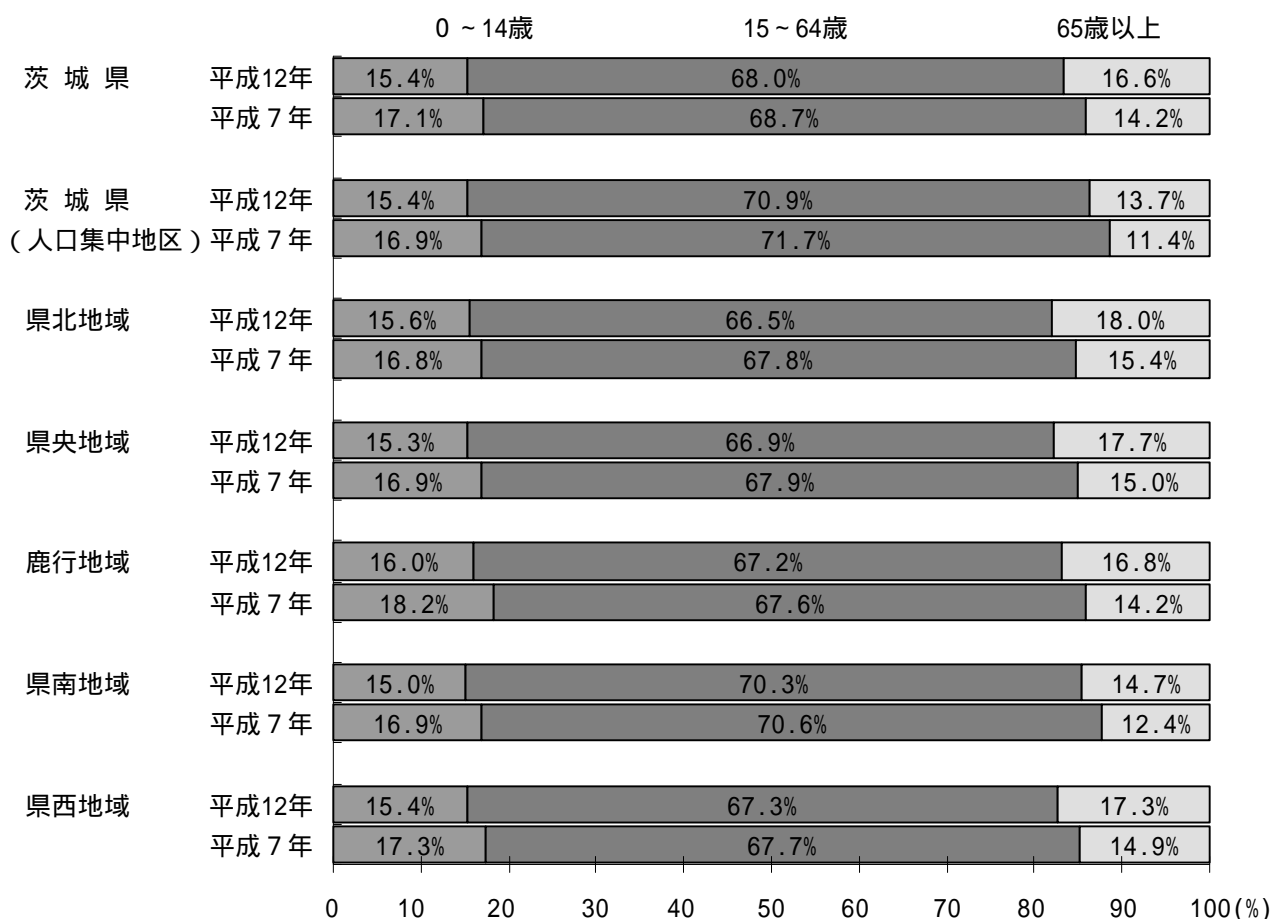


注) 昭和20年は11月1日現在の数え年による人口調査であり、年齢3区分は1～15歳、16歳～65歳、66歳以上。

人口集中地区では、年少人口割合が15.4%（前回比1.4ポイントの低下）、生産年齢人口割合が70.9%（同0.8ポイントの低下）、老年人口割合が13.7%（同2.3ポイントの上昇）と、県（平均）に比べて老年人口割合が低く、生産年齢人口割合が高くなっている。この結果従属人口指数が41.1と県平均より5.9ポイントも低くなっている。また、老年人口割合が県平均より2.9ポイント低いいため、老年化指数も県平均を19ポイント下回っている（第4表、図 - 8）。

次に、県内5地域別に年齢3区分別人口割合をみると、年少人口割合では鹿行地域が16.0%で最も高く、以下県北地域（15.6%）、県西地域（15.4%）、県央地域（15.3%）、県南地域（15.0%）の順で、全ての地域で前回に比べて低下（1.2～2.2ポイント）している。生産年齢人口割合では、県南地域が70.3%で最も高く、以下県西地域（67.3%）、鹿行地域（67.2%）、県央地域（66.9%）、県北地域（66.5%）の順で、県南地域は70%を超えたものの、全ての地域で前回は下回っている。老年人口割合では、最も高いのが県北地域で（18.0%）で、以下県央地域（17.7%）、県西地域（17.3%）、鹿行地域（16.8%）、県南地域（14.7%）の順となっており、5地域とも前回に比べ上昇し、県南の除いた全ての地域で16%を超えている（第4表、図 - 8）。

図 - 8 県，地域，年齢（3区分）別人口割合（平成7年，平成12年）



県内5地域の年齢構成指数をみると、従属人口指数は、県南地域（42.3）のみが県平均（47.0）を下回っており、老年化指数は、今回初めて県平均が100を超え108.1となり、県南地域（97.5）のみが県平均を下回っている（第4表）。

続いて、市町村別に年齢3区分別人口割合をみると、生産年齢人口割合の低い110町村のうちの9町村は老年人口割合の高い9町村と同じであり、また、老年人口割合では、上位36市町村までが20.0%を超えている。

さらに、最も高い市町村と低い市町村の差は、年少人口割合では6.3ポイント、生産年齢人口割合では20.8ポイント、老年人口割合では23.3ポイントとなっている。

表 - 12 年齢（3区分）別人口割合の高い市町村

年少人口割合			生産年齢人口割合			老年人口割合		
順位	市町村名	割合（％）	順位	市町村名	割合（％）	順位	市町村名	割合（％）
1	神 栖 町	17.5	1	荃 崎 町	74.3	1	水 府 村	33.7
2	守 谷 町	17.2	2	取 手 市	73.8	2	緒 川 村	31.5
3	江 戸 崎 町	17.2	3	利 根 町	73.5	3	美 和 村	31.3
4	ひたちなか市	17.0	4	牛 久 市	73.4	4	里 美 村	31.3
5	三 和 町	16.9	5	守 谷 町	72.4	5	大 子 町	30.9
6	波 崎 町	16.8	6	藤 代 町	72.4	6	山 方 町	29.7
7	谷 和 原 村	16.8	7	総 和 町	72.1	7	御 前 山 村	29.3
8	潮 来 町	16.8	8	神 栖 町	71.7	8	金 砂 郷 町	27.1
9	龍 ケ 崎 市	16.7	9	阿 見 町	71.2	9	七 会 村	26.7
10	つ く ば 市	16.6	10	伊 奈 町	70.9	10	大 洋 村	25.0
県平均		15.4	県平均		68.0	県平均		16.6

表 - 13 年齢（3区分）別人口割合の低い市町村

年少人口割合			生産年齢人口割合			老年人口割合		
順位	市町村名	割合（％）	順位	市町村名	割合（％）	順位	市町村名	割合（％）
1	利 根 町	11.2	1	水 府 村	53.5	1	守 谷 町	10.4
2	荃 崎 町	11.6	2	緒 川 村	54.6	2	神 栖 町	10.5
3	霞 ケ 浦 町	12.5	3	里 美 村	54.8	3	牛 久 市	12.2
4	山 方 町	12.5	4	大 子 町	56.1	4	総 和 町	12.2
5	美 和 村	12.6	5	美 和 村	56.2	5	つ く ば 市	12.5
6	桜 川 村	12.8	6	金 砂 郷 町	57.1	6	龍 ケ 崎 市	12.6
7	水 府 村	12.8	7	山 方 町	57.7	7	取 手 市	13.0
8	御 前 山 村	12.9	8	七 会 村	57.8	8	三 和 町	13.0
9	東 町	12.9	9	御 前 山 村	57.8	9	千 代 田 町	13.1
10	大 子 町	13.0	10	桂 村	59.0	10	ひたちなか市	13.4
県平均		15.4	県平均		68.0	県平均		16.6

年齢構成指数では、従属人口指数の高い10町村のうちの9町村までが老年人口割合高い町村と一致している。さらに、従属人口指数の低い10市町村が生産年齢人口割合の高い市町村と一致している。また、老年化指数をみると、66市町村が100.0を超えており、これらの市町村では、老年人口が年少人口より多いことを示している（第4表、表 - 14・15）。

表 - 14 年齢構成指数の高い市町村

年少人口指数			老年人口指数			従属人口指数			老年化指数		
順位	市町村名	割合(%)	順位	市町村名	割合(%)	順位	市町村名	割合(%)	順位	市町村名	割合(%)
1	金砂郷町	27.5	1	水府村	63.1	1	水府村	87.0	1	水府村	263.2
2	桂村	27.1	2	緒川村	57.6	2	緒川村	83.0	2	美和村	249.2
3	七会村	26.9	3	里美村	57.0	3	里美村	82.4	3	大子町	237.6
4	江戸崎町	25.7	4	美和村	55.7	4	大子町	78.1	4	山方町	237.0
5	常北町	25.5	5	大子町	55.0	5	美和村	78.1	5	御前山村	226.7
6	緒川村	25.4	6	山方町	51.6	6	金砂郷町	75.0	6	緒川村	226.5
7	大和村	25.4	7	御前山村	50.7	7	山方町	73.3	7	里美村	225.2
8	谷和原村	25.3	8	金砂郷町	47.5	8	七会村	73.1	8	桜川村	193.8
9	里美村	25.3	9	七会村	46.2	9	御前山村	73.0	9	東町	192.6
10	常陸太田市	25.3	10	桂村	42.3	10	桂村	69.3	10	大洋村	189.4
県平均		22.6	県平均		24.4	県平均		47.0	県平均		108.1

表 - 15 年齢構成指数の低い市町村

年少人口指数			老年人口指数			従属人口指数			老年化指数		
順位	市町村名	割合(%)	順位	市町村名	割合(%)	順位	市町村名	割合(%)	順位	市町村名	割合(%)
1	利根町	15.2	1	守谷町	14.3	1	茎崎町	34.6	1	神栖町	59.8
2	茎崎町	15.6	2	神栖町	14.6	2	取手市	35.4	2	守谷町	60.2
3	取手市	17.8	3	牛久市	16.6	3	利根町	36.1	3	龍ヶ崎市	75.3
4	伊奈町	18.7	4	総和町	17.0	4	牛久市	36.3	4	つくば市	75.6
5	藤代町	18.8	5	取手市	17.6	5	藤代町	38.1	5	三和町	77.3
6	霞ヶ浦町	19.3	6	つくば市	17.7	6	守谷町	38.2	6	総和町	77.7
7	内原町	19.4	7	龍ヶ崎市	17.8	7	総和町	38.8	7	ひたちなか市	78.7
8	牛久市	19.7	8	三和町	18.6	8	神栖町	39.0	8	千代田町	79.9
9	大洗町	20.2	9	千代田町	18.6	9	阿見町	40.4	9	東海村	82.8
10	桜川村	20.5	10	茎崎町	19.0	10	伊奈町	41.0	10	牛久市	84.1
県平均		22.6	県平均		24.4	県平均		47.0	県平均		108.1

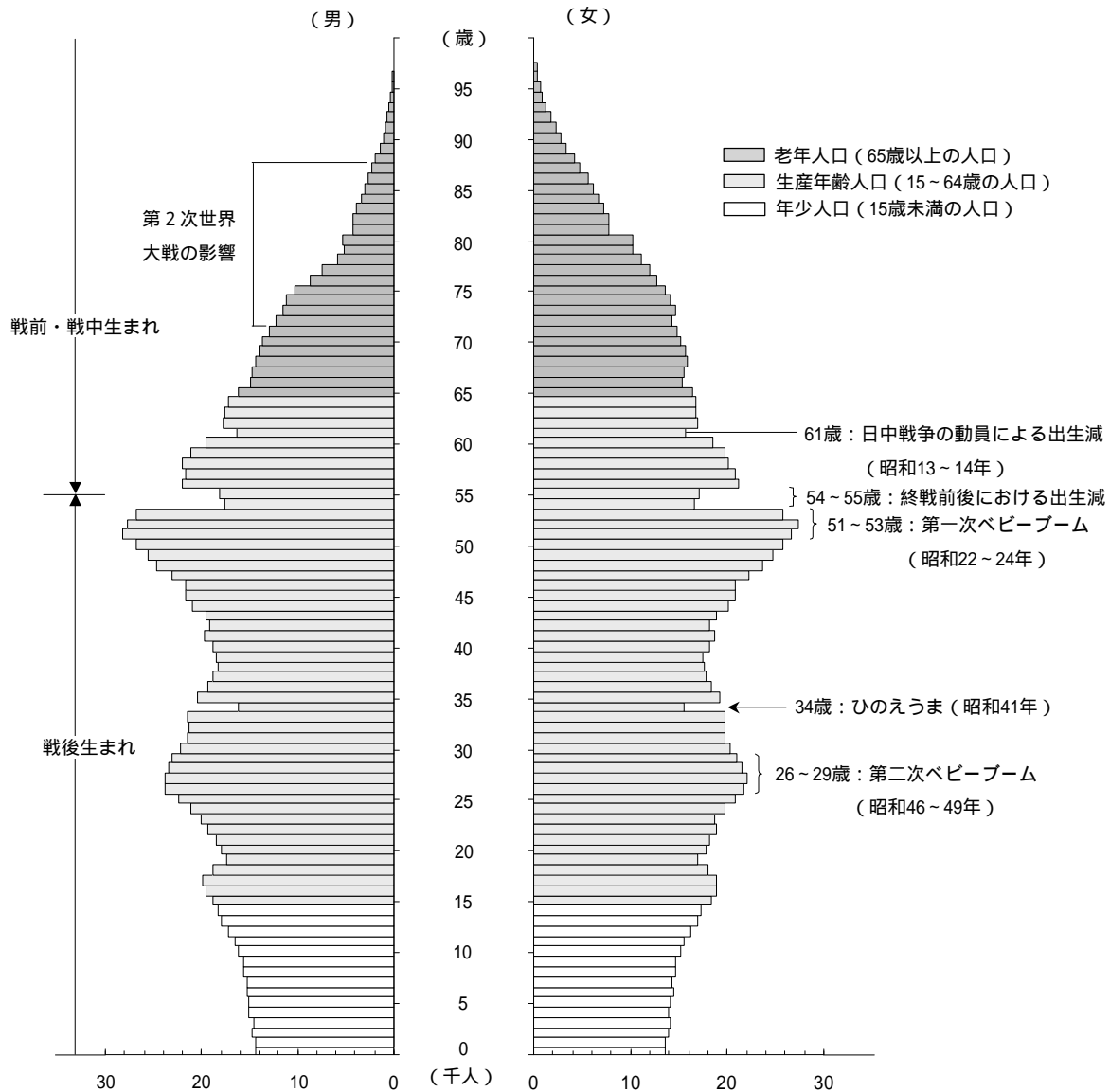
図 - 9 は、茨城県の人口ピラミッドであるが、最も高い山は昭和22年～24年の第1次ベビーブーム世代（51歳から53歳）で、昭和46年～49年の第2次ベビーブーム世代（26歳～29歳）がこれに次ぎ、戦時下に出産を奨励された影響で56歳～59歳も高くなっている。

これとは逆に、昭和41年（丙午）に生まれた34歳や終戦の直前及び直後に生まれた54歳～55歳は前後の年齢に比べて極端に低く、日華事変の動員による出産減（昭和13～14年）のため61歳も同様に低い。

また、男子の77歳～90歳は女子の同年齢に比べて著しく少ないが、これは第2次世界大戦の影響も大きい（第5表）。

生まれた年の元号別では，昭和（1927年～1988年とする）生まれが，2,396,694人（男1,219,775人，女1,176,919人）と最も多く，以下，平成（1989年以降とする）生まれの354,682人（男182,607人，女172,075人），大正（1913年～1926年とする）生まれの207,970人（男78,005人，女129,965人），明治（1868年～1912年とする）生まれの25,208人（男7,156人，女18,052人）の順となっており，総人口に占める割合は昭和生まれが80.3%，平成生まれが11.9%，大正生まれが7.0%，明治生まれが0.8%である。

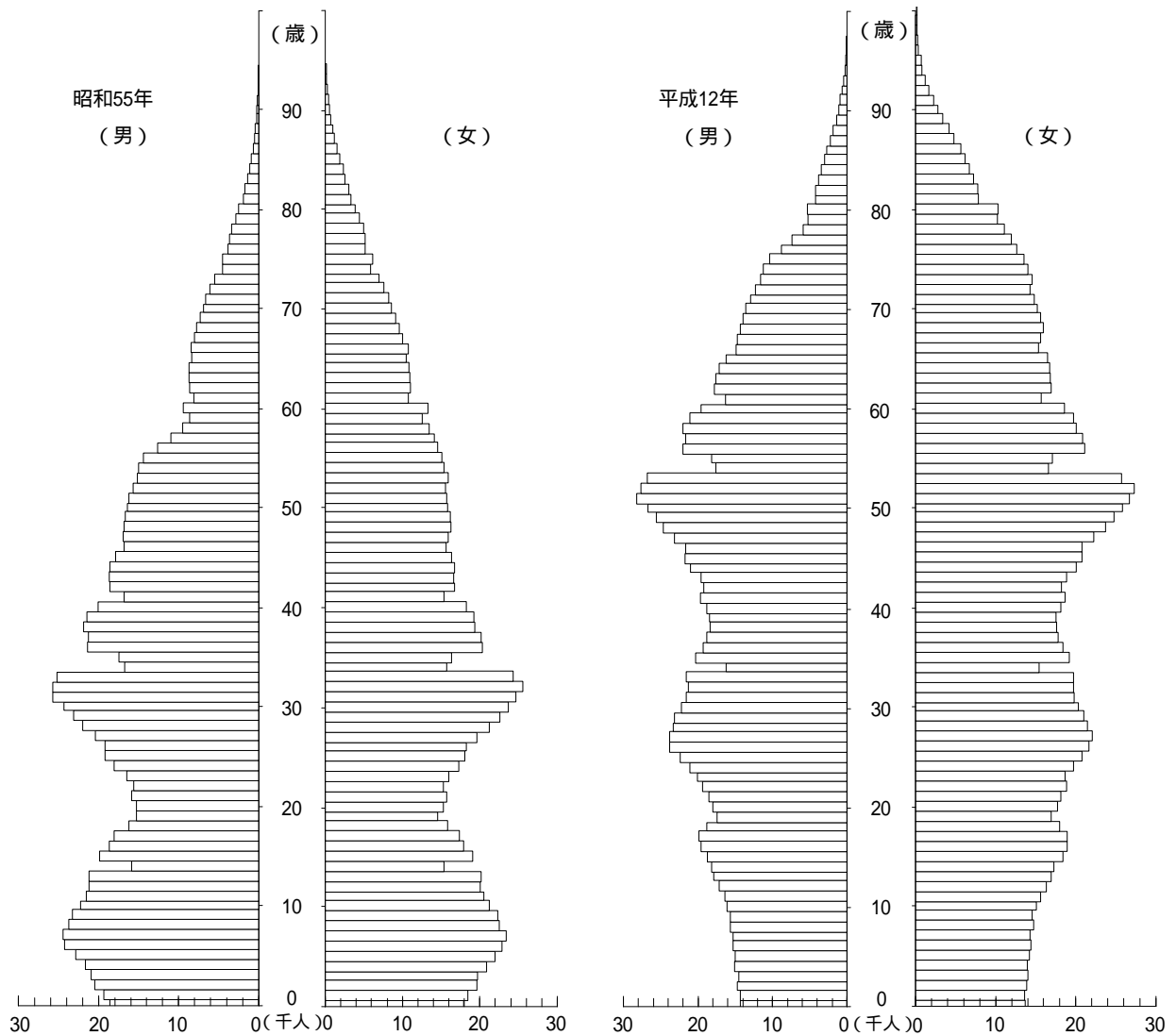
図 - 9 人口ピラミッド（平成12年） - 茨城県 -



また、戦後生まれは2,111,909人で、総人口の70.7%を占め、戦前・戦中生まれは872,645人（総人口の29.2%）となっている。

人口ピラミッドを20年前（昭和55年）と比較すると、第2次ベビーブーム世代の後、出生率の低下に伴い、年齢の若いほど人口が減少しているため、ピラミッドは裾がつぼまった形になっている（図 - 10）。

図 - 10 人口ピラミッド（昭和55年，平成12年） - 茨城県 -





### (3) 外国人人口

本県に居住する外国人は30,848人となり、昭和55年と比べると、20年間で6.7倍になったことになるが、今回は前回に比べ6,050人増加したが（増加率24.4%）、前回の増加率は123.6%であり伸び率は低下している。

国籍別割合の推移をみると、韓国・朝鮮国籍が昭和55年の75.1%から回を追うごとに低下しており、今回は前回より3.4ポイント低下している。東南・南アジアは前回同様29.5%であるが、ブラジル国籍は前回よりも1.7ポイント増加している。

5地域別に前回と比較すると、県北地域が554人（増加率21.5%）、県央地域が707人（同19.4%）、鹿行地域が958人（同39.6%）、県南地域が2,731人（同28.1%）、県西地域が1,100人（同17.1%）増加して、県北地域が3,134人、県央地域が4,357人、鹿行地域が3,376人、県南地域が12,455人、県西地域が7,526人となった。全県の増加率は24.4%で、前回（123.6%）と比較すると99.2ポイントの大幅減となっている。

昭和55年からの推移をみると、県南地域の増加が特に著しく、20年間で約8.9倍になっている。鹿行地域はこの5年間の増加率が、他のどの地域よりも高かった（図 - 11）。

市町村別では、最も外国人が多いのがつくば市（4,827人）で、以下水戸市（1,880人）、土浦市（1,850）人、水海道市（1,176人）、神栖町（1,149人）の順となっており、前回と比較して最も増えたのはつくば市（増加数1,293人）、牛久市（同506人）、水海道市（同484人）の順となっている（第8表）。

図 - 11 5地域別外国人人口及び割合の推移（昭和55年～平成12年）

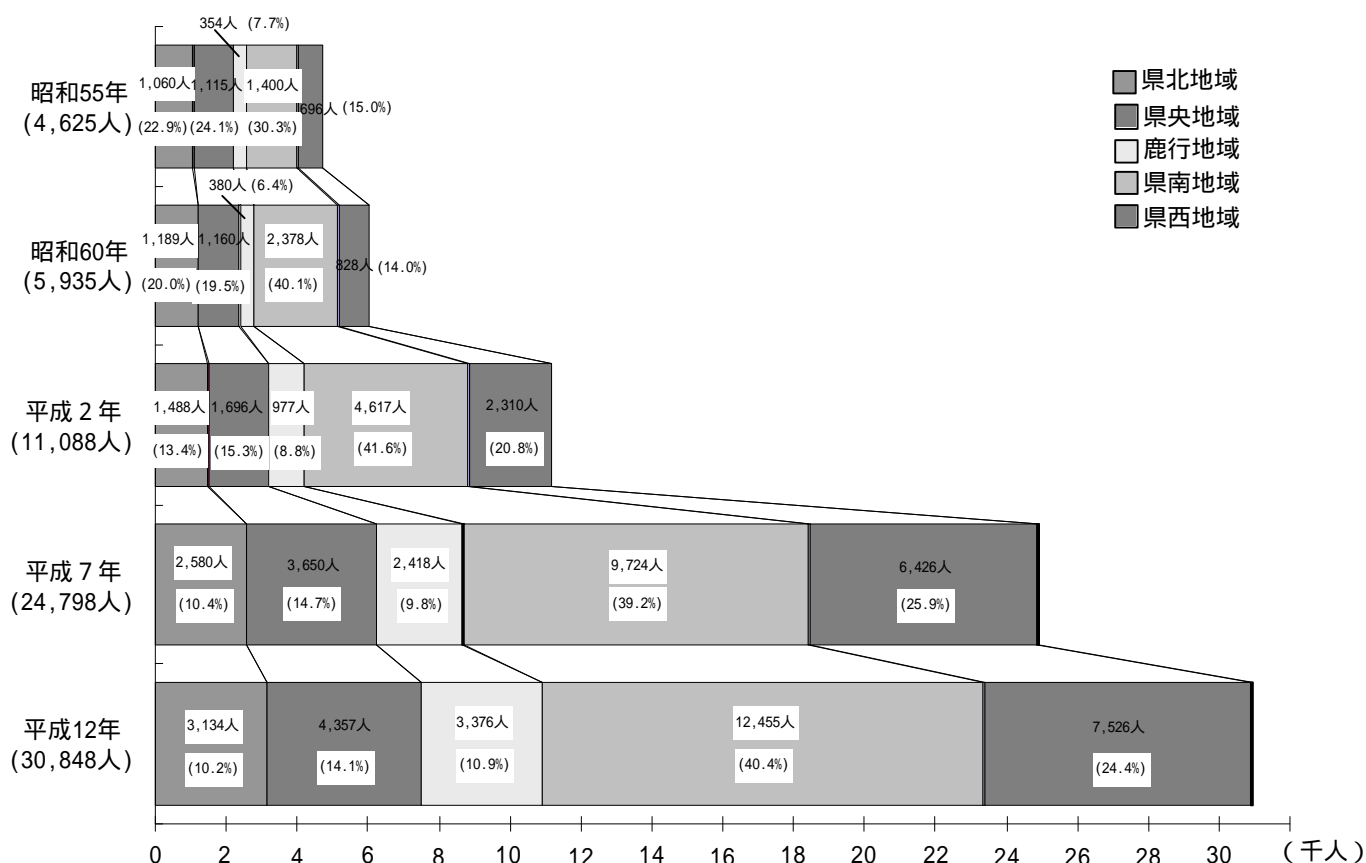
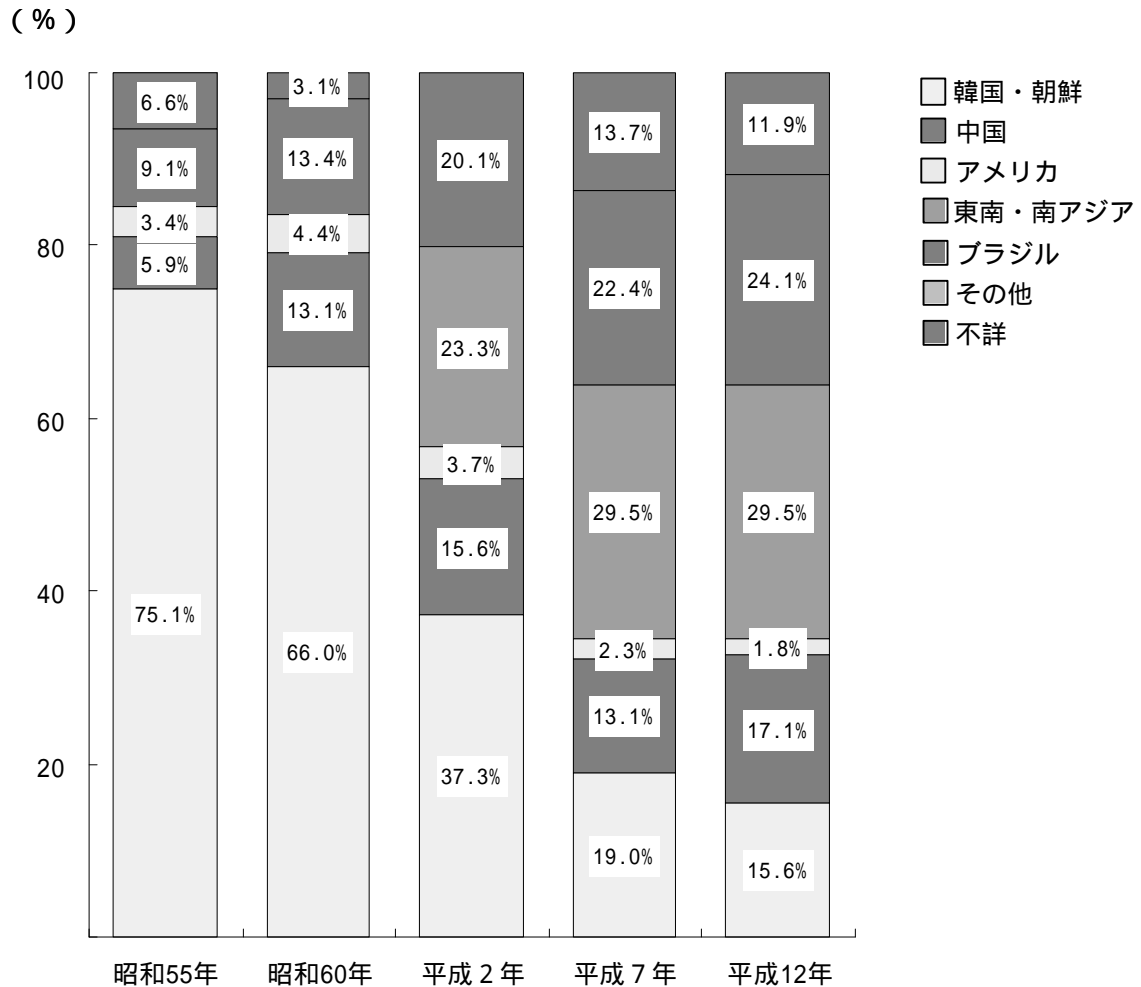


図 - 12 国籍別外国人人口割合の推移（昭和55年～平成12年） - 茨城県 -



注) 昭和50年及び平成2年, 7年の場合, 「不詳」は「その他」に含まれる。

「その他」のうち, 平成2年は, 東南・南アジア, 平成7年は, 東南・南アジアとブラジルをそれぞれ分離した。

#### (4) 配偶関係

15歳以上人口の配偶関係をみると男子は1,251,585人のうち未婚者が390,759人(未婚率31.2%),有配偶者が787,207人(有配偶率62.9%),死別者が36,203人(死別率2.9%),離別者が28,716人(離別率2.3%)となっている。一方女子は1,274,468人のうち未婚者が277,621人(未婚率21.8%),有配偶者が785,236人(有配偶率61.6%),死別者が160,604人(死別率12.6%),離別者が44,082人(離別率3.5%)となっている(第6表,表-16)。

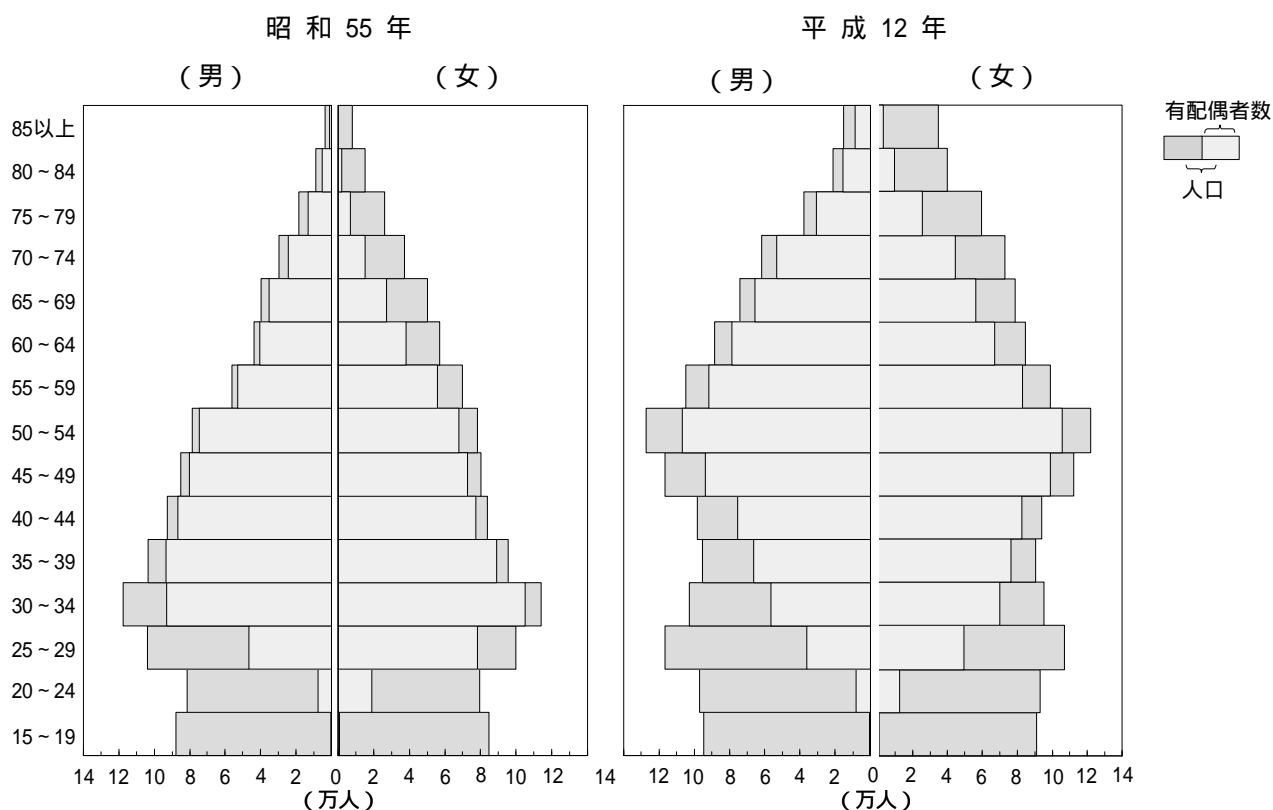
未婚率は男子の方が女子より9.4ポイント高くなっているが,これは主として婚姻の年齢が男子の方が高いことによるものである。一方死別率は女子の方が9.7ポイント高く,これは夫婦の年齢及び平均余命が一般に男子より長いことが主な要因である。また,離別率は女子の方が男子より0.6ポイント高くなっている(表-16)。

表 - 16 配偶関係，男女別人口（昭和55年～平成12年） - 茨城県 -

区 分		人口		構成比（％）	
		昭和55年	平成12年	昭和55年	平成12年
男	15歳以上人口	950,492	1,251,585	100.0	100.0
	未婚	259,695	390,759	27.3	31.2
	有配偶	654,974	787,207	68.9	62.9
	死別	26,456	36,203	2.8	2.9
	離別	8,545	28,716	0.9	2.3
女	15歳以上人口	978,442	1,274,468	100.0	100.0
	未婚	183,573	277,621	18.8	21.8
	有配偶	655,443	785,236	67.0	61.6
	死別	121,458	160,604	12.4	12.6
	離別	16,200	44,082	1.7	3.5

注) 15歳以上人口には配偶関係「不詳」を含む。

図 - 13 年齢（5歳階級），男女別15歳以上人口及び有配偶者数（昭和55年，平成12年） - 茨城県 -



注) 15歳以上人口には配偶関係「不詳」を含む。

年齢階級別にこれを見ても、未婚率では男子が15～19歳（99.4%）や20～24歳（91.2%）に比べ25～29歳（68.0%）で急速に低下し、35～39歳（26.1%）まではこの傾向が続くが、40～44歳（18.9%）以降はゆるやかに低下している。女子では20～24歳（85.7%）から30～34歳（21.7%）にかけての低下が男子よりも著しく、35～39歳（9.8%）以降ゆるやかに低下している。有配偶率で特徴的なのは、男子が60～64歳（88.8%）でピークに達し以降低下しているのに対し、女子は40～44歳（88.1%）を頂点に以降低下が始まっている点である（図 - 14）。

年齢階級別未婚率を20年前（昭和55年）と比較してみると，男女ともに20～84歳の各年齢階級で上昇している。男子は25～29歳で13.2ポイント，30～34歳で23.0ポイント，35～39歳で18.3ポイント，40～44歳で14.4ポイント高くなっており，一方，女子は20～24歳で9.8ポイント，25～29歳で30.5ポイント，30～34歳で16.0ポイント高くなっており，男女ともに晩婚・非婚化が進んでいる（図 - 14）。

図 - 14 男女及び年齢（5歳階級）別未婚率及び有配偶率

